丸井浩教授 略歴・業績一覧

（略歴）

1952 年 4 月 12 日　東京都日本橋浜町に生まれる.

学歴

1971 年 3 月　東京都立日比谷高等学校卒業
1972 年 4 月　東京大学教養学部文科三類入学
1974 年 4 月　東京大学文学部印度哲学印度文学科進学
1976 年 3 月　同　卒業
1976 年 4 月　東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専攻修士課程進学
1979 年 3 月　同　修士課程修了
1979 年 4 月　同　博士課程進学
1983 年 3 月　同　博士課程単位取得退学

職歴・研究歴

1983 年 4 月　財団法人東方研究会専任研究員（1990 年 3 月まで）
1984 年 1 月　インド・プネー大学サンスクリット高等研究センター聴講生（1983 年度文部省アジア諸国等派遣留学生として）（1986 年 1 月まで）
1990 年 4 月　武蔵野女子大学短期大学部専任講師（1992 年 3 月まで）
1992 年 4 月　東京大学文学部助教授
1993 年 4 月　ドイツ・ハンブルク大学在外研修（1994 年 3 月まで）
1995 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科助教授（大学院部局化に伴う）
1999 年 1 月　同研究科教授（2018 年 3 月まで）
2003 年 4 月　東京大学総長補佐（2004 年 3 月まで）
2006 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科副研究科長・東京大学評議員（2008 年 3 月まで）
2005 年 10 月　日本学術会議第 20 期会員・哲学委員会副委員長（2008 年 9 月まで）
2008 年 10 月　日本学術会議第 21 期会員・哲学委員会副委員長（2011 年 9 月まで）
2011 年 10 月　日本学術会議第 22 期会員（2014 年 9 月まで），第一部幹事（2014 年 3 月まで）
2013 年 4 月　公益財団法人中村元東方研究所 常務理事（現在に至る）

学位

2011 年 11 月　博士（文学）（東京大学）

所属学会

日本印度学仏教学会，日本宗教学会，日本南アジア学会，東方学会，インド思想史学会，比較思想学会，日本仏教学会，仏教思想学会，地球システム・倫理学会

受賞

1990 年 11 月 4 日　第 9 回東方学会賞
1991 年 7 月 20 日　第 33 回日本印度学仏教学会賞（1990 年度）
2013 年 10 月 10 日　第 23 回中村元東方学術賞
2017 年 11 月 27 日　インド文化関係評議会（ICCR）Distinguished Indologist Award 2017

（業績）

I. 著書（単著・共著）・編集協力

1. [共編著］*Index to the Saddharmapuṇḍarīkasūtra: Sanskrit, Tibetan, Chinese*, fascicles I-XI, Tokyo: the Reiyukai, 1985.4–1993.10, xxiv +1193pp.（江島惠教他と共編著）
2. [共著］『講座・仏教の受容と変容 I：インド編』佼成出版社，1991 年 10 月，252pp. (菅沼晃編，第 2 章第 2 節「仏教とインド哲学の交渉」pp. 94–119 を分担執筆)
3. [編集協力]『岩波 哲学・思想事典』岩波書店，1998 年 3 月，xiv+1929pp.（廣松渉・末木文美士他編，インド哲学関係編集協力）
4. [編集協力] *The Way to Liberation: Indological Studies in Japan*, Vol. I, Japanese Studies on South Asia, No. 3, Delhi: Manohar, 2000, 289pp. Edited by Sengaku Mayeda, in collaboration with Y. Matsunami, M. Tokunaga and H. Marui.
5. [共著］『原典で読む 原始仏教の世界』東京書籍，2001 年 3 月，358pp.（中村元監修・阿部慈園編集，第 10 章「原始仏教とウパニシャッド思想」pp. 239–268 を分担執筆）
6. [編集協力] 辛島昇・前田専学他監修『[新版] 南アジアを知る事典』平凡社，2012 年 5 月，1073pp.（片岡啓他と編集協力）
7. [単著］『ジャヤンタ研究—中世カシミールの文人が語るニヤーヤ哲学—』山喜房佛書林，2014 年 2 月，v +561 pp.
8. [代表編集者］『インド哲学仏教学研究』22（特別号：インド哲学諸派の〈存在〉をめぐる議論の解明），2015 年 3 月.
9. [単著］『「ブッダ最後の旅」に学ぶ』（NHK Eテレ番組「こころの時代—宗教・人生—」のガイドブック），NHK 出版，2016 年 4 月，175pp.
10. [共編］『インド的共生思想の総合的研究—思想構造とその変容を巡って—』白峰社，2017 年 3 月，xi+570pp.（前田專學・釈悟震他と共編）

II. 学術論文

1. 「ニヤーヤ・ヴァイシェーシカ学派における実体の知覚条件について」『印度学仏教学研究』 28-2，1980 年 3 月，pp. 680–681.
2. 「Vāyu の知覚について」『印度学仏教学研究』29-2，1981 年 3 月，pp. 644–645.
3. 「Nyāyasūtra I, i, 14 の解釈について」『印度学仏教学研究』30-2，1982 年 3 月，pp. 930–926.
4. 「Vaiśeṣikasūtra 4.1.6 の研究 (1)」『仏教文化』14，1984 年 7 月，学術増刊号 1，東京大学仏教青年会，pp. (25)–(48).
5. “A Study on the Textual Problems of the Padārthadharmasaṃgraha,”『東方』1，1985 年 4 月，東方研究会，pp. 106–120.
6. 「インド哲学における知覚論の一問題—ニヤーヤ・ヴァイシェーシカ学派とミーマーンサー学派の風知覚論争—」『東方』2，1986 年 11 月，東方学院，pp. 162–175.
7. 「命令文の意味を問う議論—新ニヤーヤ派の「vidhi 論争」研究の序として—」『高崎直道博士還暦記念論集・インド学仏教学論集』春秋社，1987 年 10 月，pp. 139–154.
8. 「命令から行為開始に至るプロセスの解明—ウダヤナの儀軌論—」『東方』3，1987 年 12 月，東方学院，pp. 122–136.
9. 「ヴェーダ聖典の命令と神—ウダヤナの儀軌論をめぐって—」『宗教研究』61-4，1988 年 3 月，pp. 140–141.
10. 「命令機能の論理的解明—インド論理学派の儀軌解釈を中心として—」『東方學』76，1988 年 7 月，東方學会，pp. (1)–(12).
11. 「ニヤーヤ学派における儀軌論争史の一断面—シャシャダラによるウダヤナ批判—」『印度学仏教学研究』37-2，1989 年 3 月，pp. (75)–(79).
12. 「楽（sukha）の二義性とニヤーヤ学派の解脱観」『宗教研究』62-4，1989 年 3 月，pp. 199–200.
13. 「インド論理学派の解脱観について」『武蔵野女子大学仏教文化研究所紀要』7，1989 年 3 月，pp. 31–46.
14. “What Prompts People to Follow Injunctions?: An Elucidation of the Correlative Structure of Interpretations of *Vidhi* and Theories of Action,” *Acta Asiatica* 57, 1989.9, Tokyo: The Toho Gakkai, pp. 11–30.
15. 「儀軌解釈と行為論との連関構造の解明 (1)」『武蔵野女子大学仏教文化研究所紀要』8，1990 年 3 月，pp. 25–39.
16. [Abstract] “The Meaning of Injunctions and the Problem of Truth in Indian Philosophy of Language,” *Transactions of the International Conference of Orientalists in Japan* 35, 1990.5, pp. 137–138.

17. 「新ニヤーヤ派が言及する bhāvanā 説」『印度学仏教学研究』39-2，1991 年 3 月，pp. (101)–(105).

18. 「儀軌解釈と行為論との連関構造の解明 (2)」『武蔵野女子大学仏教文化研究所紀要』9，1991 年 3 月，pp. 47–60.

19. 「禁止命令の意味と二種の否定—聖典命令の権威正当化をめざすインド土着の論理—」『南アジア研究』3，1991 年 10 月，日本南アジア学会，pp. 82–108.

20. 「語意習得の理論と聖典命令の解釈」『前田專學博士還暦記念論集・〈我〉の思想』春秋社，1991 年 10 月，pp. 487–500.

21. "The 'Son of Buddha' in Saddharmapuṇḍarīkasūtra," *Index to the Saddharmapuṇḍarīka-sutra: Sanskrit, Tibetan, Chinese*, fascicle XI, 1993.10, Gleanings 3, pp. 2–4.

22. 「Jayanta Bhaṭṭa の著作をめぐる諸問題」『印度哲学仏教学』11，1996 年 10 月，北海道印度哲学仏教学会，pp. (1)–(20).

23. 「Jayanta Bhaṭṭa 著作問題追記—śāstrāntara について—」『印度学仏教学研究』47-2，1999 年 3 月，pp. (42)–(48).

24. 「ジャイナ教文献における Jayanta Bhaṭṭa の引用断片—"Pallava"の正体—」『加藤純章博士還暦記念論集・アビダルマ仏教とインド思想』春秋社，2000 年 10 月，pp. 445–461.

25. "Some Remarks on Jayanta's Writings: Is *Nyāyakalikā* His Authentic Work?," *The Way to Liberation: Indological Studies in Japan,* vol. I, ed. S. Mayeda, Delhi: Manohar, 2000, pp. 91–106.

26. 「Jayanta Bhaṭṭa と Vācaspatimiśra の先後関係をめぐって」『江島惠教博士追悼論集・空と実在』春秋社，2001 年 2 月，pp. 441–461.

27. 「いわゆる『六派哲学』という概念について—先行研究概観を中心として—」『木村清孝博士還暦記念論集・東アジアの仏教—その成立と展開—』春秋社，2002 年 11 月，pp. 677–690.

28. 「六つの哲学体系」『菅沼晃博士古稀記念論文集・インド哲学仏教学への誘い』大東出版社，2005 年 3 月，pp.24–45.

29. "Some Notes on the Controversies between the "ācāryāḥ" and the "vyākhyātāraḥ" in the *Nyāyamañjarī,*"『印度学仏教学研究』54-3，2006 年 3 月，pp. (33)–(41).

30. "A Point of Contact between Philosophy and Religion in India: The Meaning of *mahājana-parigraha* in Jayanta's Justification of the Vedas," *Nyāya-Vasiṣṭha: Felicitation Volume of Prof. V. N. Jha,* 2006, pp. 388–400.

31. 「論証式における upanaya の意味について—初期ニヤーヤ学史再構成に向けての一資料—」『印度学仏教学研究』53-2，2007 年 3 月，pp. (82)–(90).

32. 「宗教伝統の権威論証とインド哲学—護教論理と寛容精神—」『同志社大学 21 世紀 COE プログラム 一神教の学際的研究 文明の共存と安全保障の視点から 研究

成果報告書 2006 年度』，2007 年 7 月，pp. 112–142.

33. “On the Authorship of the *Nyāyakalikā* again,” 『印度学仏教学研究』56-3，2008 年 3 月，pp. (27)–(35).

34. 「*Nyāyamañjarī* に登場する「六タルカ（ṣaṭtarkī）」の意味」『インド論理学研究』I（松本史朗教授還暦記念号），2010 年 9 月，インド論理学研究会，pp. 1–40.

35. 「『正しく知られるべき対象』（prameya）としての artha 概念の変貌—ジャヤンタが語るニヤーヤ哲学の思想史的位置をさぐる一視点—」『インド哲学仏教学研究』19，2012 年 3 月，pp. 19–59.

36. “The Meaning of a Diversity of Established World Views or Tenets (*siddhānta*) in the Science of Debate: with Special Reference to Jayanta’s Interpretation of the *abhyupagama-siddhānta* (NS 1.1.31) and Its Evaluation in the Development of Nyāya System,” *World View and Theory in Indian Philosophy,* ed. by P. Balcerowicz, Delhi: Manohar, 2012, Warsaw Indological Studies Series 5, pp. 407–432.

37. “The Structure of the Whole Discussion on *śabda* in the *Nyāyamañjarī,*” 『印度学仏教学研究』61-3，2013.3，pp. (35)–(44).

38. 「ジャヤンタによるシャクティ概念批判—*Syādvādaratnākara* における “Pallava” の引用断片に関する追記—」『奥田聖應先生頌寿記念 インド学仏教学論集』佼成出版社，2014 年 3 月，pp. 189–204.

39. 「インドの寛容思想と包括主義—中村博士の思想研究の眼差し—」(特集 1「共生の思想—中村元の「慈悲」の思想をてがかりに—」)『比較思想研究』41，2015 年 3 月，pp.18–27.

40. 「世界平和への希求—人類の教師，中村先生からのメッセージの重み—」『日本仏教教育学研究』24，2016 年 3 月，pp. 19–41.

41. 「平和思想としての仏教の可能性—中村元博士からのメッセージを探る—」『インド的共生思想の総合的研究—思想構造とその変容を巡って—』白峰社，2017 年 3 月，pp. 22–40.

III. その他（事典項目執筆・概説・小論・紹介・随想・講演録等）

1. ［事典項目］「アージーヴィカ」「アジタ・ケーサカンバリン」「虚空」「根（こん）」など『平凡社 大百科事典』平凡社，1984 年 11 月.

2. 「伝統と論理」『まーるが』仏教説話大系月報 39，鈴木出版，1986 年 6 月，pp. 5–6.

3. ［事典項目］「知識手段」『仏教・インド思想辞典』（早島鏡正博士還暦記念），1987 年 4 月.

4. 「インド哲学と論議道」『花本貫瑞老僧一周忌追悼集・活捉懼曇』 黙仙寺，1988 年 11 月，pp. 84–87.

5. ［事典項目］「存在論」「認識論」「論理学」「苦行」など『南アジアを知る事典』平凡社，1992 年 10 月.

6. 「書籍紹介：松本照敬『ラーマーヌジャの研究』」『東方』10，1994 年 12 月，pp. 342–344.

7. 「解説」『早島鏡正著作集 11　歎異抄』世界聖典刊行協会，1996 年 7 月，pp. 389–403.

8. ［事典項目］「ヒンドゥー教の倫理」「龍樹」『倫理思想辞典』星野勉・三嶋輝夫・関根清三編，山川出版社，1997 年 4 月.

9. ［事典項目］「因果性」「懐疑主義」「虚偽論」「実体」「正統と異端」「存在」「哲学」「ニヤーヤ学（派）」「ニヤーヤ・スートラ」「ニヤーヤ・マンジャリー」「人間観」「無」「唯物論」『岩波 哲学・思想事典』岩波書店，1998 年 3 月.

10. ［共著］島薗進・丸井浩他『輪廻転生—生れ変わりはあるか—』大法輪閣，1998 年 11 月.（「古代インドの輪廻観」pp. 6–17 を分担執筆）

11. ［共同執筆］丸井浩・護山真也「インドの死生観—輪廻思想の種々相—」『死生観と生命倫理』関根清三編，東京大学出版会，1999 年 8 月，pp. 93–106.

12. ［講演録］「理屈と理屈を越えたもの—インド哲学研究の意味を求めて—」『仏教文化研究所紀要』第 40 集，龍谷大学仏教文化研究所，2001 年 11 月，pp. 248–270.

13. ［科研報告文編集］「各文明における本文批評と解釈の比較と展望—聖典の伝承と解釈をめぐる座談会報告を中心にして—」『論集　本文批評と解釈』（「古典学再構築」研究成果報告書III），2003 年 3 月，pp. 40–64.

14. 「本当の自分—インド哲学の今日的意義を問い求めて—」『アンジャリ』5，親鸞仏教センター (真宗大谷派)，2003 年 6 月，pp. 22–23.

15. 「『バウッダ』に寄せて」『三枝充悳著作集 第 3 巻 バウッダ』月報 5，法蔵館，2004 年 12 月，pp. 1–3.

16. ［国際学会報告］「哲学—インド哲学を中心に—」『東方學會報』87「特集 第 37 回アジア・アフリカ研究会議 (ICANAS-37) —その学術的成果と意義—」，2004 年 12 月，pp.18–21.

17. ［東京大学広報誌記事］「サイエンスへの招待：インド哲学仏教学」『淡青 tansei』16，2005 年 7 月，p. 20.

18. ［「寛容宥和の精神」へのまなざし—中村元博士の思想と向き合うために—」『春秋』No. 471，2005 年 8 月，pp. 5–8.

19. ［編集］『人文知の可能性　日本学術会議哲学系公開シンポジウム提題レジュメ集』第 19 期日本学術会議哲学研究連絡委員会（代表者　前田專學），2005 年 9 月，x + 253pp.

20. 「インド思想と「罪」の概念—四天王寺国際仏教大学平成 18 年度夏学期「仏教I」

（瞑想）講話録をもとに—」『四天王寺国際仏教大学紀要』45 号，2008 年 3 月，pp. 543–564.

21. ［講演録］「身近なところからインド哲学を考える」『心』(武蔵野大学日曜講演集) 第 29 集，2010 年 4 月，pp. 75–101.

22. ［東京大学学術広報誌記事］「光—インドの神秘思想と合理精神」*SYNAPSE* vol. 02-LIGHT，2011 年 4 月.

23. ［事典項目］「中村元」『［新版］南アジアを知る事典』平凡社，2012 年 5 月.

24. ［シンポジウム報告記事］「科学者と一般市民のはざまで—参加者からの質問とメッセージ—」『学術の動向』第 17 巻第 5 号，2012 年 5 月，「特集 1　原発災害をめぐる科学者の社会的責任—科学と科学を超えるもの—」(pp. 9–55)，pp.51–55.

25. 「寛容宥和の精神と包括主義—インド的思惟の特質と新たな共生のしくみ—」『地球システム・倫理学会会報』7，2012 年，pp. 91–99.

26. ［シンポジウム報告記事企画編集］「東日本大震災復興の道筋と今後の日本社会」『学術の動向』第 18 巻第 2 号，2013 年 2 月，pp. 31–50.

27. 「書籍紹介：Shaku Goshin（釈悟震），English tr. and ed.: *The Urugodawatte Great Controversy, New English Translation & the Sinhala Text*, Colombo: Udaya Graphics Press, 2012」『東方』28, 2013 年 3 月, pp. 402–405.

28. ［東京大学広報誌記事］「インド哲学と時間」『淡青 tansei』26，2013 年 4 月，pp. 30–31.

29. ［国際シンポジウム報告］「伝統知の継承と発展—インド哲学史における“テキスト断片”の意味をさぐる—」『東方学』126，2013 年 7 月，pp. 147–157.

30. ［パネル報告］「インド哲学諸派における〈存在〉をめぐる議論の諸相」『印度学仏教学研究』62-2，2014 年 3 月，pp. 795–794.

31. ［講演録］「インド哲学から共生へのヒントを語る」『EMPower』9，EMP 倶楽部，2014 年 3 月，pp. 4–7.

32. ［座談会記録］「學問の思い出—原 實博士を圍んで—」(座談会司会)『東方學　特集　座談会「学問の思い出」—創立 65 周年記念—』，2014 年 6 月，pp. 123–164.

33. ［講演録］「人は生まれながらにして三つの負債を負う—古代インドのおかげさまの思想—」『モラロジー研究』73，2014 年 9 月，pp. 1–25.

34. 「特別号刊行にあたって」『インド哲学仏教学研究』22（特別号：インド哲学諸派の〈存在〉をめぐる議論の解明)，東京大学大学院人文社会系研究科・文学部インド哲学仏教学研究室，2015 年 3 月，pp. i–iv.

35. 「「無我」の教え—対立を乗りこえるために知恵—」『浅草寺仏教文化講座』第 61 集，2017 年 8 月，pp. 42–61.

36. 「「マンダラ的思考」のすすめ」「情報化社会を疑う眼」一心寺編『ちょっといい話』第 13 集，2017 年 9 月，pp. 366–371，pp. 390–395.